

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第2区分

【発行日】平成19年2月1日(2007.2.1)

【公開番号】特開2005-191159(P2005-191159A)

【公開日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【年通号数】公開・登録公報2005-027

【出願番号】特願2003-428573(P2003-428573)

【国際特許分類】

H 01 L	23/04	(2006.01)
H 03 B	5/32	(2006.01)
H 03 H	9/02	(2006.01)
H 01 L	25/065	(2006.01)
H 01 L	25/07	(2006.01)
H 01 L	25/18	(2006.01)

【F I】

H 01 L	23/04	E
H 03 B	5/32	H
H 03 H	9/02	A
H 03 H	9/02	K
H 01 L	25/08	Z

【手続補正書】

【提出日】平成18年12月7日(2006.12.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下面を開口とする凹部を有すると共に該凹部を囲む側壁底面に実装用パッド電極を備え、前記凹部に電子部品を収容する構造の電子デバイス容器であって、前記実装用パッド電極が前記側壁の凹部側に折り曲げて拡大形成されていることを特徴とする電子デバイス容器。

【請求項2】

前記容器は上面を開口とする第2の凹部を備えており、該第2の凹部にも電子部品を収容することが可能なことを特徴とする請求項1に記載の電子デバイス容器。

【請求項3】

下面を開口とする第1の凹部と上面を開口とする第2の凹部とを有すると共に前記第1の凹部を囲む側壁底面に実装用パッド電極を配設した容器と、前記容器の第2の凹部に収容した圧電振動素子と、前記容器の第1の凹部に収容した発振回路を構成するための電子部品とを備えており、

前記実装用パッド電極が前記側壁の凹部側に折り曲げて拡大形成されていることを特徴とする圧電発振器。

【請求項4】

前記実装用パッド電極を、圧電振動子と接続するための接続電極として用いたことを特徴とする請求項1記載の電子デバイス容器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

図2は、圧電デバイスの従来例としての、特開2000-101349号公報に開示された水晶発振器のパッケージ構造を示す縦断面図である。

同図に示されるように、本水晶発振器20は、上面に凹部（第2の凹部）21を形成した容器22の前記凹部21の底部に水晶振動子23を装着し、金属蓋24で前記凹部21を密封した、該容器22の横断面形状が略長方形の振動子パッケージ25の外底面に、その横断面外周の形状が前記容器22の横断面外周の形状と一致する環状の台座26を固着して、該環状台座26と前記容器22の外底面とで形成される凹部（第1の凹部）27底面に形成された図示しないパターン電極に発振回路部品28を装着した構造を有する。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

さらに、前記第2の接続電極51は第2の容器47内部に設けられた他の内部接続導体52によって、第2の容器47の側壁47a底面四隅に設けられた実装用パッド電極53に接続されている。

この実装用パッド電極53が、装置等の印刷配線基板のパターン電極にはんだ付け等によつて装着されることによって、装置側から水晶発振器40への電源電圧の供給を受け、あるいは、本水晶発振器40から装置側へ発振出力を供給する。

【特許文献1】特開2000-101349号公報

【特許文献2】特開2001-16036号公報